

金	沢	医	科	大	学	病	院	
地	域	医	療	連	携	だ	よ	り

No.18 2017-1 発行



リハビリテーション医学科
教授 影近謙治

「新しいリハビリテーションの地域連携時代」
—ICU から在宅までの対応—

当院のリハビリテーション医学科は、北陸の4大学病院の中で唯一直接外来患者が受診でき、また地域の医療機関からの紹介や依頼に対して直接対応することが可能です。また回復期リハビリテーション病棟を有し、急性期から回復期までのリハビリテーション（以下リハ）を担当して、患者の高い機能回復レベルでの在宅復帰を展開しています。対象疾患患者であれば他院・地域からの入院も可能です。回復期リハ病棟では、365日リハを行い、一日も早く在宅復帰できるようスタッフ一同が、家族をリハするつもりで日々治療にあたっています。

2017年6月には念願の新しいリハセンターが完成します。1000㎡の広大な訓練室で、大学病院では全国一の60名のセラピストとリハ専門医が患者の社会復帰を目標に治療に奮闘しています。従来型の訓練室中心のリハから、早期離床を目的とした病棟でのリハを行い、主治医、看護師・メディカルスタッフとの徹底したチーム医療を展開しています。

最新のリハ治療も導入し、脳の可塑性を利用したニューロリハを開始しました。電気刺激や磁気刺激、振動刺激を利用し、痙縮に対してはボツリヌス注射、バクロフェン髄腔内治療を行ない効果をあげており、多くの患者様に満足していただいています。嚥下障害による誤嚥性肺炎の予防、交通事故後の慢性疼痛治療、事故や糖尿病後の切断患者の高機能の義肢・装具の作製、また脳卒中や脳外傷後の高次脳機能障害患者や認知症のかたの運転評価を行い、石川県リハセンターや自動車学校と協力して安全な運転再開への指導を行っています。このような多彩な外来を設けて地域のニーズに直ちに応えられるように診療しています。

最近のがんのリハでは、骨転移があっても整形外科医・放射線科との共同で早期にリハをおこない荷重をかけて歩行訓練を行なっています。歩行可能となり在宅復帰が可能となったがんの患者が増えています。ICUでの呼吸リハでは合併症がなくなり早期に人工呼吸器からの離脱による離床が可能となっています。また、ロボットを使って歩行訓練・学習を行うリハロボット、さらに今後は再生医療のリハ、透析患者の腎臓リハなど内部障害のリハが重要となりそれに対応できるよう準備をしています。

地域の先生方にはいつでも患者の障害についてご相談ください。直ちに評価・訓練を行い在宅でのQOLの高い生活を送れるよう治療・指導をさせていただきます。

外来は毎週火曜日と木曜日です。お気軽にご相談・ご紹介をよろしくお願いいたします。

(問い合わせ先)

〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学一丁目一番地

TEL 076-218-8219 FAX 0120-076-286

金沢医科大学病院

地域医療連携事務課

regional@kanazawa-med.ac.jp

Kanazawa Medical University Hospital